

二十四諸天と二十八部衆

その他のタイトル	On the relationship between Twenty-four devas and Twenty-eight attendants
著者	二階堂 善弘
雑誌名	東アジア文化交渉研究 = Journal of East Asian cultural interaction studies
巻	6
ページ	229-236
発行年	2013-03-27
URL	http://hdl.handle.net/10112/7607

二十四諸天と二十八部衆

二階堂 善 弘

On the relationship between Twenty-four devas and Twenty-eight attendants

NIKAIDO Yoshihiro

There are famous statues in Kyoto Rengeou-yin 蓮華王院 (Sanjusangendo 三十三間堂) called Twenty-eight attendants 二十八部衆. And there are Twenty-four devas 二十四諸天 in many big Chinese Buddhist temples. This report compare these statues and analyze the relationship between Twenty-four devas and Twenty-eight attendants.

キーワード：日中比較、仏教、護法神

1. 日中で異なる菩薩・護法神

日本の寺院と中国の仏寺において、仏菩薩や神々の形象が異なっていることについては、すでに幾つかの小論にて述べた。

例えば、日本の四天王は多聞天が宝塔と三叉の戟、広目天が筆と巻物、持国天と増長天が剣や戟、或いは金剛杵を持つものに対し、中国の四天王は多聞天が傘、広目天が蛇または龍、持国天が琵琶、増長天が剣を持つという違いがある¹⁾。むろん時代を遡れば、唐代においては日中の四天王はほぼ持ち物は一致している。しかし、元代より時代を降るにつれて日中間の相違が際立っていく。また韓国における四天王の形象は、むしろ現在の中国のものに近い。

さらに例えば地蔵菩薩も、日本も中国も声聞形をとるのは一致するものの、中国では「幽明教主」としてやや威厳のある姿をしている。地蔵については、中国では新羅の王子・金喬覺^{きんきょうがく}が、安徽の九華山に来て地蔵となったという伝承を有している²⁾。しかしこの地蔵菩薩の伝承は日本では知られておらず、もっと親しみやすい「お地蔵さま」の姿の方が広まっている。また観音菩薩などについても、日中のイメージの差は大きい。

1) 筆者「明清期における四天王像の変容」(『明清期における武神と神仙の発展』関西大学出版部2009年) 155～171頁

2) 筆者「日中の地蔵菩薩の差異と文化交渉」(『アジアの民間信仰と文化交渉』関西大学出版部2012年) 133～161頁

中国の寺院に行くと、一部の規模の大きな寺院で数多くの護法神が並んでいるのを目にすることがある。見れば帝釈天や梵天など、よく知られた仏教の天部の神々である。しかし一方で、散脂大将なども含まれている。

梵天・帝釈天や散脂大将などの神々といえ、すぐに想起されるのは二十八部衆である。特に京都の蓮華王院・三十三間堂に安置される二十八部衆の像は傑作として知られている。また清水寺にも二十八部衆の神像がある。ただ、これら二十八部衆は現在の中国の寺院では現在ほとんど見られない。中国の寺院の護法衆については、ほぼ「二十諸天」或いは「二十四諸天」であるとされている。一方でこれらの諸天については、かえって日本ではほとんどその存在が意識されていない。小論では、日本の二十八部衆と中国の二十四諸天を比較し、その差異について考えてみたい。

2. 二十八部衆について

もっとも、二十八部衆と呼ばれる像については、その比定は甚だ困難であるようで、伊東史朗氏は次のように述べている³⁾。

千手観音はその眷属として二十八部衆を従え、この観音と経典を護持するとされる。わが国では三十三間堂（蓮華王院本堂）安置のものが古来著名で、その姿を模す造例が多いが、経典や図像の間で、その像容や名称について必ずしも一致を見ているわけではない。(略)つまり最初の「密迹金剛力士」と「那羅延堅固王」を二王とすれば、これに、梵天、帝釈天、四天王（東方天、毘楼勒叉天、毘楼博叉天、毘沙門天）を入れて、古典的な護法の諸神が揃う。さらに、千手観音眷属の代表として大弁功德天、婆薮仙人を加えたものが、これ以降の二十八部衆構成に入ってくるので、これらを仮に第一グループとしよう。これに対しそれ以外の諸像は、八部衆の一部が参入するなど、やはり護法神に違いはないが、作品によって名称の異なるものもある。これが第二グループである。これに風神と雷神が加わり、合計三十尊となるのが三十三間堂像の構成である。

実際には風神と雷神を入れて三十体になる構成である。うち二十八部として挙げられているのは、密迹金剛力士・那羅延堅固王・東方天（持国天）・毘楼勒叉天（増長天）・毘楼博叉天（広目天）・毘沙門天（多聞天）・梵天・帝釈天・毘婆伽羅王・五部浄居天・沙羯羅王・阿修羅王・乾闥婆王・迦楼羅王・緊那羅王・摩睺羅王・金大王・満仙王・金毘羅王・満善車王・金色孔雀王・大弁功德天（弁財天）・神母天・散脂大将・難陀龍王・摩醯首羅王（大自在天）・婆薮仙人・摩和羅女である。

一方で、二十八部衆の画像も別に残されており、それによれば、鳩槃荼王・伊鉢羅王といった名も見えている⁴⁾。

3) 伊東史朗「二十八部衆」（『日本の美術』379号・至文堂1997年）36～39頁

4) 伊東史朗「尊名比定の試み」（『日本の美術』379号・至文堂1997年）44～65頁

これらの二十八部衆像の根拠となっているのは、善無畏訳とされる『千手観音造次第法儀軌』である⁵⁾。

第三重有二十八部衆、有各各本形。真言曰、一密迹金剛士、赤紅色具三眼、右持金剛杵、左手拳安腰。二烏芻君荼央俱尸、左手持一股金剛杵、右手拳安腰、八部力士賞迦羅綠色、右手持慧劍、左手三股印作也。三魔醯那羅達、黒赤紅色具三眼瞋怒相也、以三股掲為天冠、及金剛宝以為瓔珞、左手持杵、右手把宝盤、内赤外黒色也。四金毘羅陀迦毘羅、白紅色、左手把宝弓、右手把宝箭。五婆駟婆樓那、白紅色、左手索、右手安腰。六滿善車鉢真陀羅、左手金剛輪、右手拳印、紅色。七薩遮摩和羅、左手把宝幢、上有鳳鳥、右手施願印。八鳩蘭单吒半祇羅、左手金剛鐸、右手金剛拳、白紅色。九畢婆伽羅王、左手把刀、右手安腰。十応徳毘多薩和羅、左手持弓、右手三叉杵箭、色黄黒也。十一梵摩三鉢羅、色紅白、左手持宝瓶。右手三股杵。十二五部淨居炎摩羅、色紫白、左手持炎摩幢、右手女竿。十三釈王三十三、色白紅、左手安腰、右手持金剛杵。十四大弁功德娑怛那、帝釈天王主之女子大徳天女也、多聞天之大妃也。左手把如意珠、紫紺色也、右手金剛劍。十五提頭頼吒王、赤紅色又青白色、左手執如意宝王色黄青八角、右手刀。十六神母女等大力衆、色如。十七毘樓勒叉王、色赤、左手執杵、右手把劍。十八毘樓博叉王、色白、左手執杵、右手把金索青色。十九毘沙門天王、色紺青、左手持宝塔、右手杵。二十金色孔雀王、身色黄金、左手執宝幢、上有孔雀鳥細妙色也。説無量妙言。二十一二十八部大仙衆者、二十八天神也、伊舍那神以為上首、身色黒赤白也。左手執杵。右手取朱盤器。金剛宝以為瓔珞。二十二摩尼跋陀羅、色白紅、左手執宝幢、上有如意玉、右手施願印也。二十三散脂大将弗羅婆、身色赤紅、左手執金剛、右手安腰。二十四難陀跋難陀、身色上赤色、左手執赤索、右手劍頭各有五龍下黒青色、左手青索、右手刀。娑伽羅龍伊鉢羅、上色赤白、左手執赤龍、右手刀、下色青白、左手白龍也。二十五修羅、所謂大身修羅也。身赤紅色、左手持日輪、右手月輪。乾闥婆、左手執歌琴、右手舞印、身色白紅也。迦樓羅王、金色兩羽具、左手貝、右手執宝螺笛。緊那羅、摩睺羅伽、此兩王形白色如羅刹女、有二眼乃至三四五眼、持諸樂器等、具足二四六八臂、天冠天衣諸宝珠以為身嚴。二十六水火雷電神、此四神皆備夫妻。雷者天雷神、電者地電也、此余者水火以為身嚴。二十七鳩槃荼王、長鼻瞋怒形也。黒色、左手執大器、右手執索。二十八毘舍闍、大目瞋怒形。黒赤色、左手火玉也。

この記載には不可解な所も多い。例えば二十一番は「二十八部大仙衆」であり、これだけで二十八名の神がいることになる。また二十四番も幾つかの龍王がひとくりに扱われている。二十五番では、「修羅・乾闥婆・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽」とやはり複数の神が並んでいる。二十六番の「水火雷電神」も、水神・火神・雷神・電神と四つの神の組み合わせである。これらを蓮華王院の二十八部衆と比べても、一致する所もあれば、異なっている所もある。恐らく、「二十八」という数字自体がかなり恣意的なものであると考えられる。またこの儀軌の記載と蓮華王院の像とでは相違するところが多い。そのため、単純にこれが根拠であると認めがたい点もある。

5) 唐・善無畏訳『千手観音造次第法儀軌』（『大正新修大蔵経』第20冊No.1068）

3. 二十諸天と二十四諸天

中国の寺院においては、護法の神は十天・十二天など幾つかの組み合わせがあるが、よく知られているのは二十諸天と二十四諸天である。しかし二十諸天も二十四諸天も、寺院によって神々が相違する場合が見られる。二十諸天は山西大同の上華嚴寺のものが、二十四諸天は大同の善化寺のものが有名である⁶⁾。これら二十諸天や二十四諸天の根拠となっているのは『諸天伝』及び『重編諸天伝』などの經典であるとされる。ただ、この両者はそれぞれ独立して編纂された書であり、その性格が異なることについては、林鳴宇氏の詳しい論考がある⁷⁾。



二十諸天の摩利支天（上海玉仏寺）

一般的に二十諸天とされる護法神は以下の通りである⁸⁾。

梵天王・帝釈天・毘沙門天王・提頭頼吒・毘留勒叉天王・毘留博叉天王・金剛密迹天・摩醯首羅天・散脂大将・大弁天・功德天・韋天將軍・堅固地神・菩提樹神・鬼子母天・摩利支天・日宮天子・月宮天子・婆竭羅（または水天）・閻摩羅王

これを蓮華王院の二十八部衆と比べると、梵天・帝釈天・四天王・摩醯首羅天・散脂大将といった面々

6) 白化文「從比較文化史的角度看“諸天”的變化(上)」(中国文聯網http://big5.xinhuanet.com/gate/big5/www.cflac.org.cn/wenbo/2011-02/11/content_22037146.htm)及び「從比較文化史的角度看“諸天”的變化(下)」(中国文聯網http://big5.xinhuanet.com/gate/big5/www.cflac.org.cn/wenbo/2011-02/14/content_22058076.htm)

7) 林鳴宇『宋代天台教学の研究』(山喜房佛書林2003年)731~763頁

8) 廖暘「円覚・諸天雜識」(『中国寺觀壁画全集六』広東教育出版社2009年)8~13頁

は一致する。しかしこちらでは弁財天と功德天は分かれており、韋駄天や摩利支天などの護法神が新たに加わっている。



二十諸天の金剛密迹（上海玉仏寺）

『重編諸天伝』によれば、以下の諸天が取りあげられている⁹⁾。

娑婆界主号令独尊大梵天王	男
地居世主切利称王帝釈尊天	男
北方護世大藥叉王多聞尊天	男
東方護世鳩槃荼主增長尊天	男
西方護世為大龍王広目天王	男
親伏怨魔誓為力士金剛密迹	
尊特之主居色頂天魔醯首羅	
二十八部総領鬼神散脂大将	男
能与総持大知慧聚大弁財天	女
随其所求令得成就大功德天	女
殷憂四部外護三洲韋駄天神	男
增長出生証明功德堅牢地神	女
覚場垂蔭因果互嚴菩提樹神	女

9) 宋行霆述『重編諸天伝』（『卍新纂大日本統蔵経』第88冊No.1658）CBETAの電子データ（<http://tripitaka.cbeta.org/en/X88n1658>）より

生諸鬼王保護男女鬼子母神 女
行日月前救兵戈難摩利支天
已上凡十六位也。又有添為二十位者。
百名利生千光破暗日宮天子
星主宿王清涼照夜月宮天子
秘藏法宝主執群龍娑竭羅王
掌幽陰權為地獄主閻摩羅王
又有添入風水等神通前作三十三位。

二十四諸天の場合、二十諸天に緊那羅・東岳大帝・紫微大帝・雷神を加える。この場合、東岳大帝も紫微大帝も仏教系の神ではなく、道教系の神々である。さらに三十三天にする場合は風神・水神なども加えるようにとある。



二十諸天の堅牢地神（上海玉仏寺）

さらに中国においても「二十八天」が存在する。像としては北京大慧寺大悲殿のものがよく知られている。これは明代に造られたもので、主となるのは千手観音である。つまり、蓮華王院の場合と同じく『千手観音造次第法儀軌』を根拠とする。しかしながら、その構成は儀軌とも、蓮華王院のものとも異なっている点が多い。この二十八天について、廖陽氏は次のように述べている。

二十八天の典型的な例としては、北京大慧寺大悲殿に見られるものがある。この殿は明の正徳八年（1513年）に建てられたものである。主尊の両側に二十八天の立像が並んで配置されており、壁の左右の側から両側壁の間にまでその列は伸びている。左の列の諸天は順序に従い、大梵天・阿修羅・

二十四諸天と二十八部衆（二階堂）

乾闥婆・維摩詰・閻魔羅で、転じて左側壁の吉祥天女・持国天・増長天・日宮天子・密迹金剛・大弁財天・鬼子母・堅牢地神と難陀跋難陀である。右の列の神々は帝釈天・摩睺羅伽・紫微大帝・緊那羅・地蔵王で、転じて右側壁に摩醯首羅天・多聞天・広目天・月宮天子・韋駄天・摩利支天・散脂大将・菩提樹神と東岳大帝となっている。二十四諸天と比べて、娑伽羅龍王と雷神が無く、六名の別の神が加わっている。

すなわち、二十四諸天に単純に幾つかの神々を足したというものでもない。いま、二十八部衆・二十四諸天・二十八天の異同について見てみると、以下の表の通りになる。

二十八部衆	二十四諸天	二十八天	一般的な名称
梵天	梵天王	大梵天	梵天
帝釈天	帝釈天	帝釈天	帝釈天
東方天	提頭頼吒	持国天	持国天
毘楼勒叉天	毘留勒叉天王	増長天	増長天
毘楼博叉天	毘留博叉天王	広目天	広目天
毘沙門天	毘沙門天王	多聞天	多聞天
密迹金剛力士	金剛密迹天	密迹金剛	金剛力士(二王)
那羅延堅固王			那羅延天(二王)
散脂大将	散脂大将	散脂大将	散脂大将
大弁功德天	大弁天	大弁財天	弁財天
	功德天	吉祥天女	吉祥天
摩醯首羅王	摩醯首羅天	摩醯首羅天	大自在天
毘婆迦羅王			畢婆迦羅
阿修羅王		阿修羅	阿修羅王
乾闥婆王		乾闥婆	乾闥婆王
迦楼羅王			迦楼羅王
緊那羅王	緊那羅	緊那羅	緊那羅王
沙羯羅王	娑羯羅		娑伽羅龍王
難陀龍王		難陀・跋難陀	難陀龍王
摩睺羅王		摩睺羅伽	摩睺羅伽
五部浄居天			五部浄
金色孔雀王			孔雀明王
金毘羅王			金比羅
金大王			金大王
満仙王			満仙王
満善車王			満善車王
神母天	鬼子母天	鬼子母	鬼子母神
婆藪仙人			婆藪仙人
摩和羅女	堅固地神	堅牢地神	堅牢地神
	韋天將軍	韋駄天	韋駄天
	菩提樹神	菩提樹神	菩提樹神
	摩利支天	摩利支天	摩利支天
	閻摩羅王	閻魔羅	閻魔王

	日宮天子	日宮天子	日宮天子
	月宮天子	月宮天子	月宮天子
		地藏王	地藏菩薩
		維摩詰	維摩詰
	東岳大帝	東岳大帝	東岳大帝
	紫微大帝	紫微大帝	紫微大帝
雷神	雷神		雷神
風神			

このように二十八部衆と二十四諸天は、一致する部分もあるものの、相違する部分が非常に大きい。また寺院によってその護法衆の人員が異なっている場合もある。恐らく、四天王の形象と同じく、その基づく所は共通であったと考えられるが、時代が降るにつれて、日本と中国で各々独自の発展を遂げたものであろう。

もっとも、日本においても江戸期の初期には、黄檗宗の伝来と同時に二十四諸天も持ち込まれたようである。これらについては実際に現地調査を行った上でまた別に論じたい。